

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 20 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21310153

研究課題名（和文）中国における複合メディア環境と世論の形成

研究課題名（英文） Chinese compound media environment and formation of public opinion

研究代表者

高井 潔司（TAKAI KIYOSHI）

北海道大学・大学院メディア・コミュニケーション研究院・教授

研究者番号：20312407

研究成果の概要（和文）：1990年代の市場経済の導入以降の中国のメディア環境の変化とそれに伴う大衆世論の形成過程を明らかにした。市場経済導入後も中国においては共産党と政府のメディア規制は継続している。他方、インターネット、ツイッターという新興メディアの登場で大衆の情報発信、意見表明は活発化しており、大衆世論の高まりと党と政府の世論誘導の強化というせめぎ合いは中国の政治、社会状況に大きな影響を与えている。その展開状況を、文献分析、アンケート調査や現地インタビューを通して、明らかにした。

研究成果の概要（英文）：We tried to clarify the change of the media environment in China after the introduction of the market economy of the 1990s and the morphosis of the popular public opinion accompanying it. In China, the regulations on the media of the Communist Party and the government are continuing even after market economy introduction. On the other hand, information dissemination and opinion manifestation by the public are activated by the appearance of new media called the internet and twitter. Contention between the rise of public opinion and strengthening guidance onto public opinion by the Communist Party has had big influence on Chinese politics and social circumstances. The present situation of China media was clarified through literature analysis, questionnaire and local interview.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1500000	450000	1950000
2010年度	2500000	750000	3250000
2011年度	2600000	780000	3380000
年度			
年度			
総計	6600000	1980000	8580000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：社会主義市場経済、世論形成、伝統メディア、新興メディア、集団抗議事件、メディア管理、世論誘導、ミニブログ

1. 研究開始当初の背景

中国では1990年代の社会主義市場経済の導入とそれに伴う高度成長の実現の過程で、メディアの商業化が進行し、新聞をはじめメディアの大衆化が進んだ。

また世界的な情報技術の革新によって中国においてもインターネットが急速に大衆の間に普及し、社会主義計画経済時代とは違って、中国共産党及びその政府とは異なる大衆世論が形成されるよ

うになった。大衆世論は、地方政府幹部の失政や腐敗、不正に対する抗議の世論を巻き起こすようになる。集団抗議事件と呼ばれるそうした動きは 21 世紀に入って、激増し、デモや暴動は年間 20 万件以上に達するようになった。中国の大衆世論は同時に、インターネットを通じ、国際社会へ直接、その意思を示すようになる。対米、対日など外交、海外メディアの対中報道に対する抗議の意思を示し、時にデモや暴動にも発展し、外交問題の解決を困難にする場合もある。

こうした大衆世論の形成は、中国当局にとっても、政治、社会の不安定要因であり、中国当局はメディアの管理を強化し、世論の誘導を試みている。

2. 研究の目的

新たなメディア環境の下で、大衆世論は、中国当局のメディア規制、管理の下で、どのように形成され、発展し、中国の政治、社会状況に、あるいは国際社会と向き合っているのか。新興メディアの発展状況とそれに対する中国当局の管理強化の現状を把握し、動的に中国の世論形成の過程を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究グループを中心にグループが所属する北大大学院メディア・コミュニケーション研究院内に、2009 年度から東アジアメディア研究センターを設立し、外部資金も導入しながら、内外の研究者、実務者との共同シンポジウムなどを開催し、研究交流や情報交換を進めてきた。研究成果については、経団連経済広報センターとの共催で、公開シンポジウムを開催し、社会に広く発表してきた。研究方法は以下の通りである。

- ① 文献分析 メディア環境の変化とそれに伴う大衆世論の高まり、大衆の集団抗議事件の激増に伴い、中国当局も危機感を高め、メディアの管理、世論の誘導について研究を指示しており、新興メディアの動向に関する調査報告書も多数出版されている。これを活用した。
- ② 実態調査 上記のように中国国内でも調査が大規模に実施されているが、これを補完し、検証するために本研究グループ独自の実態調査も実施した。
- ③ インタビュー 上記の方法を補完するため中国の研究者、実務者などに直接インタビューを行い、当局のメディア管理と世論の動向の実態把握に努めた。

4. 研究成果

本研究グループは 2004 年度以降、科研究費を利用して中国のメディア環境の構造的な変化と世論形成の関係を調査、研究してきた。長期的かつ持続的な研究の成果として、大衆世論が 90 年代は都市報、時事週刊誌がその舞台に、さらに 2000 年代はインターネットの論壇、ブログへと移り、さらに 2010 年代は中国版のツイッターであるミニブログが主流となってきたことが明らかになった。それは中国当局のメディア管理とのイタチごっこでもある。

またその背景として、中国の統治システムが、市場経済の導入、社会の多元化に伴う各セクター間の利害衝突を調整するメカニズムの未整備があることを突き止め、その調整を求めて大衆世論が当局の管理の及ばない新興メディアへと舞台を移している構造を明らかにした。

この過程でジャーナリストや文化人ら既存のオピニオンリーダーが世論形成に大きな役割を果たしており、その意味で、伝統メディアと新興メディアが複合的に機能していると言えよう。

一方、中国当局は新興メディアを通して海外からの政治、文化の流入が国内の大衆世論と結びつき、社会の不安定引いて現体制への批判に発展しないよう、メディアの管理と世論の誘導を呼びかけ、さらに 2011 年秋、党の中央委員総会において、ソフトパワーを拡充し、安定した文化強国の創設を求める決定を採択した。

本研究においてはそうした文化強国創設の決定の背景や今後の課題についても明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 22 件)

- ① 高井潔司、媒体如何報道東日本大地震 (メディアはいかに東日本大震災を伝えたか) (論文、中国語)、中国・南方日報出版社『南方伝媒研究』29 号 26-35 ページ、2011 年、査読なし
- ② 高井潔司、グローバル時代のチャイナウォッチング、蒼蒼社『中国情報源 2010-2011 年版』96-103 ページ、2010 年、査読なし
- ③ 高井潔司、政府、媒体与大衆之間的衝突与

抗衡（政府とメディア、大衆の間の衝突とバランス）（中国語）、中国・南方日報出版社『南方傳媒研究』25号 161-168 ページ

2010年、査読なし

④高井潔司、従食用肉偽装事件看日本的調査報道（食肉偽装事件から見る日本の調査報道）（中国語）、中国・南方日報出版社『南方傳媒研究』23号 138-146 ページ、2010年4月、査読なし

⑤高井潔司、中国の大国化と国家イメージの改善のジレンマ、ICCS 現代中国学ジャーナル」第2巻1号、148-158、2010年、査読有

⑥高井潔司、吉林省・鋼鉄会社社長殺人事件報道にみる中国メディアの現状、『Journalism』233号 84-91、2009年、査読なし

⑦高井潔司、中国の危うい「インターネット民主主義」、『中国情報ハンドブック 2009年版』、156-174、2009年、査読なし

⑧渡辺浩平、高速鉄道とメディア、『ジャーナリズム』2011年10月号、66—73 査読なし

⑨渡辺浩平、中国メディアの現在、『東亜』、2011年7月号、22—30、査読なし

⑩渡辺浩平、尋常ならざる中国政府の対応、『ジャーナリズム』、2011年7月号、62—67、査読なし

⑪渡辺浩平、対外発信力の増大をはかる中国のメディア戦略、『ジャーナリズム』、2010年9月号、72—77、査読なし

⑫渡辺浩平、強気の撤退示唆に潜むグーグルの「自信」、『エコノミスト』、2010年2月2日号、18、査読なし

⑬渡辺浩平、中国メディアの「言論統制と多様化」、『エコノミスト』、2009年4月28日号、査読なし

⑭渡辺浩平、どこまで進むかテレビの中台合作、ジャーナリズム、2009年1月号、78—

81、査読なし

⑮遊川和郎、上海万博は上海、中国にとってどのような転機となるのか、『東亜』、第5202巻、20-26、2010年、査読なし

⑯遊川和郎、中国にのしかかる世代間の不公平、『週刊エコノミスト』、第88巻42号、46-49、2010年、査読なし

⑰遊川和郎、中国的価値観の拡散と国際社会、ICCS 現代中国学ジャーナル、第2巻1号、174-181、2010年、査読有

⑱遊川和郎、新興経済紙・誌の台頭で変わる中国のメディア事情、『Journalism』、第230号、100-105、2009年、査読なし

⑲西 茹、“通過検証報道来検証昭和歴史”——日本媒体的自我検証性報道（中国語）、中国・南方日報出版社『南方傳媒研究』第26号、91～100頁、2010年、査読なし

⑳西 茹、直昇機24小時枕戈待発——談日本新聞媒体的災難報道（中国語）、中国・南方日報出版社『南方傳媒研究』第24号、113～122頁、2010年、査読なし

㉑西 茹、中国国際影響力の増強与国内媒体産業——以新聞出版業做大做强戰略為例（中国語）電子ジャーナル『ICCS 現代中国ジャーナル』第2巻1号、182～189頁、2010年、査読なし

㉒西 茹、中国メディア事情——統制と改革の現状、『読売クォーター』2009年春号、56～65頁、2009年、査読なし

〔学会発表〕（計6件）

①高井潔司、日中コミュニケーションから東アジアコミュニケーションへ、東亜論壇（東アジアフォーラム）、2010年9月26日、北京

②遊川和郎、上海万博は上海、中国にとってどのような転機となるのか、「上海万博社会経済効果の分析と国際比較」学術シンポジウム、2010年9月14日、上海国際問題研究院

(中国)

③遊川和郎、中国的価値観の拡散と国際社会、現代中国の国際的影響力拡大に関する総合的研究シンポジウム、2009年12月19日、愛知大学

④西 茹、日本の輿論監督、新世紀新聞輿論監督シンポジウム、2010年11月28日、浙江大学
(中国)

⑤西 茹、中国国際影響力の増強与国内媒体産業——以新聞出版業做大做强戰略為例、現代中国の国際的影響力拡大に関する総合的研究シンポジウム、2009年12月19日、愛知大学

⑥北見幸一、中国における複合メディア環境の現状と世論形成、日本広報学会、2010年11月7日、京都産業大学

[図書] (計5件)

①高井潔司編著、藤野彰、曾根康雄、遊川和郎、西茹、石井利尚、明石書店、現代中国を知るための40章、2012年、全293頁 (全40章のうち高井計6章、遊川計6章、西茹計4章執筆)

②高井潔司、蒼蒼社、中国文化強国宣言批判、2011年、253頁

③渡辺浩平編著、高井潔司、北見幸一など執筆、蒼蒼社、中国ネット最前線、2011年、267頁

渡辺 3-8、211-223、高井 22-36、北見 201-210

④遊川和郎、日本経済新聞出版社、中国を知る<第2版>巨大経済の読み解き方、2011年、231頁

⑤遊川和郎、小学館、強欲社会主義 中国全球(グローバル)化の功罪、2009年、238頁

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：

国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

高井 潔司のホームページ
<http://cgi.geocities.jp/ktakai22/index.php>

東アジアメディア研究センターのホームページ

<http://ceams.imc.hokudai.ac.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高井 潔司 (TAKAI KIYOSHI)
北海道大学・大学院メディア・コミュニケーション研究院・教授
研究者番号：20312407

(2) 研究分担者

渡辺 浩平 (WATANABE KOUHEI)
北海道大学・大学院メディア・コミュニケーション研究院・教授
研究者番号：50333636

遊川 和郎 (YUKAWA KAZUO)
北海道大学・大学院メディア・コミュニケーション研究院・教授
研究者番号：40312409

西 茹 (XI RU)
北海道大学・大学院メディア・コミュニケーション研究院・准教授
研究者番号：50433569

北見 幸一 (KITAMI KOUICHI)
北海道大学・大学院メディア・コミュニケーション研究院・准教授
研究者番号：90455626